

2023/10/01

最首悟氏について

福島市矢剣町11-3星野節子
024-563-7650

人権屋の最首悟氏は偉そうに、平等を説くために植松聖さんが収監されている拘置所へ頻繁に通っていたそうだ。そのうえ、横浜で定例会なるものを開催している。 あ～～、気持ち悪い！

最首悟氏は『平等』というキレイゴトを掲げていますが、平等に負担していない。 最首氏が知的障害者に対して本当に優しいのなら、障害者施設で働くなりボランティアすべきですが、楽な場所に居座り、苦しい土俵に上ることをせずにキレイゴトを並べているだけ。

最首悟氏は、たった一人の、しかも実子の知的障害者の世話をしているだけ。本当に世話をしているのかさえも疑わしい。世話をしているなら、もっと、世話をする人の苦勞を知っているはず。

苦勞を買って出ることはず、キレイゴトを並べる偽善者の最首悟氏でも年金を貰ってる。こういう者が年金を貰い続ける罪深さ。他人の人権を殺しておいて、良い人を演じている。これこそが国会で取り上げるべき議題。

死刑囚の植松聖さんは障害者施設で働いて「知的障害者はかわいい、天職だ」と言い、子供の頃は猫を虐める子らを止めさせたり、友人からは「気さくでいいヤツ」と評価されている。また、「安倍さん夫婦は人柄が良いと思う、みんな、安倍さん夫婦を悪く言いすぎる、だから、誤解を受けて暗殺された」という見解で、私と一致する。安倍夫婦は二人とも育ちが良いため、お人良しで、恩を仇で返されることが多いように見える。

死刑囚・植松聖さんは良い人だからこそ、障害者施設で働き、あそこまで追いつめられた。その背景こそが日本の最優先課題だというのに、最首悟氏は何も解っていない。最首悟氏とその周辺の者らの「クズ偽善」。

つい最近も、介護疲れ無理心中未遂事件があったばかり。

また、知人は裕福な家庭の専業主婦で知的障害の子供が一人いる。10時～16時はデイサービスに預けているが、気が休まる時がないそう。「息子が夜中に戸棚を開けて、紅茶のティーバックを開けたりして疲れるけれど、施設に預けた場合、子供が虐められたどうしようと考えたら預けることはできない、家族三人で一気に楽に死ぬる方法があるなら死にたい」と打ち明けた。裕福な家庭の専業主婦でも、こんなに悩んでいるのに、最首悟氏は偉そうに平等を語るが平等に負担をしていない。最首悟氏は、知的障害の実子の世話を本当にしているのだろうか？という疑問が湧いてくる。

老々介護、ヤングケアラー、老障介護、、、これらの問題をスルーして、キレイゴトを並べる「平等屋・人権屋」の最首悟氏は80歳、東大時代は全共闘、朝日新聞、ゆいま～る、、、。点と点をつないだら、『サヨク』という線になった。

山本太郎とそっくり。

太郎は「ひとりも置いてきぼりにしない社会にした、オレに任せろ」と大ホラを吹いている。

平和・人権・平等というキレイ言葉を並べるのに、なぜ、平等に負担しない？ 二人とも最低！